

大連・旅順近代史年表(1840-1955)

執筆 橋本雄一

・【 】内は地図上の図番号と位置を示す。

・月日が不明確なものには、*を付した。

1840	[6. イギリス、アヘン戦争。42年南京条約（清朝が香港島を割譲、広州・福州・廈門（アモイ）・寧波・上海を開港）。] 8~9. イギリス軍、大連沿海に進出、上陸も。
1843	7. 清朝政府、寧海県を金州庁に昇格、海防の役所も設立。 *この年、熊岳副都統府衙門を金州に移し、金州副都統府衙門【24-E1】とする。以降、遼東半島の行政中心地が金州に。
1855	12. 金州に地震発生、民間家屋567軒が倒壊。61年7月にも金州に地震、家屋280軒余りが倒壊。
1856	[10. イギリス、アロー戦争（第二次アヘン戦争）。58年天津条約（牛莊=遼寧省海城市・山東省の登州・漢口・九江・南京・台湾の台南と淡水などを開港）、60年北京条約（天津を開港、香港島対岸の九龍半島南端を割譲）]
1857	*イギリス・フランスの連合艦隊が大連湾に進入。
1860	*イギリス、北京条約によって天津条約で要求の牛莊を開港取り付け（翌年変わって営口を開港させる）。[ロシア、沿海州を得てウラジオストック建港開始。]
1865	*莊河大孤山【26-C2】で農民起義、1873年には貔子窩【25-F1】で農民起義。
1876	*清朝政府、旅順に水師提督を置く。
1879	11. 清政府、旅順の北に龍引泉【23-D1】の水源を設け、旅順口【23-D4】へ水道を通す、中国でも早期の水道工事。旅順港建設の始まり。
1880	*北洋海軍の水師が旅順防衛の任に。
1881	6. 旅順口で最初の海岸砲台が建設される。 10. 旅順港【18-A4】の建設、始まる
1884	9. 李鴻章のもと山海関から営口【26-B1】を経て旅順口まで電報線が引かれる、東北で最初。翌年1月には旅順口から鳳凰城を経て李氏朝鮮の首都漢城まで電報線が引かれる、中国と隣国とを結んだ最初。
1886	4. 北洋大臣の李鴻章、醇親王に付き添って旅順口を巡閲。
1890	*旅順港のドック一つ、埠頭、棧橋、船舶修理場、海軍建築物、港内鉄道などが完成。
1891	[*ロシア皇帝アレクサンドル3世によるシベリア鉄道建設の詔勅。東端ではウラジオストックから工事開始。]
1893	*6年をかけて大連湾に海と陸の防衛砲台を完成。旅順の老鉄山岬に黄海と渤海を分岐する航海用灯台を建設【25-A4】。
1894	5. 李鴻章、旅順口に北洋海軍を閲兵。 7. 日本、日清戦争発動。 9.17. 黄海海戦。 9. 森鷗外、第2軍兵站部の軍医部長として従軍。 10. 日本側スパイの3人を清朝側が処刑、「三崎烈士」として日露戦争後に金州城北の小山に碑。現、老虎山革命烈士陵園の近く【24-B1】。 10.24. 日本軍、莊河花園口【26-B2】に上陸。 11.6. 徐邦道の軍が迎撃するも、日本軍が金州城に侵攻・占領。その後、城内西で民家の女性たちを襲う（曲氏井事件）【24-D2】。 11.21. 日本軍の旅順占領。清朝軍との旅順攻防の中で、日本軍が敗走する清軍兵士や民間人も巻き込んで殺害（旅順虐殺事件）。翌年春、清朝側「万忠墓」建設、その後改築を重ね今に至る【19-B2】。 12.6. 日本軍、復州城【26-A2】占領。
1895	4.17. 日清講和条約（下関条約、馬関条約）締結、「清朝は遼東半島や台湾などを日本に割譲」「清国冊封体制からの李氏朝鮮独立（大韓帝国）の承認」など。 4.23. フランス・ドイツ・ロシアによる「三国干渉」。

	<p>4. 正岡子規、新聞『日本』従軍記者として金州・大連へ（5月23日帰国）。のち関連句碑が金州城内に建てられ、現在は旧副都統府博物館内に配置される【24-E1】。</p> <p>11.8. 遼東半島還付条約、締結。12月25日、日本軍が大連湾から撤退完了、清朝が金州や大連・旅順などを回復。</p>
1896	<p>〔*東清鉄道、露清銀行と清朝とで契約、翌年から建設開始（満洲里から綏芬河まで）。〕</p>
1897	<p>12.14. ロシアの艦隊が旅順口と大連湾に侵入、軍事封鎖。 商人、紀鳳台が旅順に霓裳園茶園を建設（1905年、公会堂に）。</p>
1898	<p>*ロシア、「三国干渉」と清朝との「旅大租借」条約の結果、遼東半島南端を租借。ハルビンから旅順までの鉄道敷設権を得る。</p> <p>3.28. ロシア軍が旅順と大連で上陸式典、清朝軍が旅順撤退。</p> <p>10. ロシア、旅順に臨時民政管理局と関東監獄署を設立。後者はのちロシア監獄（日本統治期の旅順監獄）となる【23-D2】。</p>
1899	<p>*旅順にプーシキン図書館を建設、のちの「関東都督府プーシキン図書館」。</p> <p>2.5. 貔子窩【25-F1】で農民が対ロシア抗議闘争。</p> <p>8.11. ロシア、青泥窪をダルニー（のちの大連）市として建設開始、大連港を「自由港」と宣言。 16日、暫定「関東省統治」政策を發布、大連市をロシア財政部直轄の特別市とする。</p> <p>9.28. ロシア政府、港と市街の設計案を決定、ダルニー港湾都市工事が始まる。 *ロシア太平洋艦隊の陸軍中將、政府の許可を得て『極東報』を創刊、翌年から毎週三回発行。</p>
1900	<p>2. 義和団、旅順・大連で反帝国主義排外活動、6月には金州・復州でも活動。東清鉄道関連のロシア人や施設が襲われ、ロシアは6、7月旅順から、天津・北京・鞍山・營口などに出兵。</p> <p>7.27. ロシア軍、金州占領。 *この年、旅順駅【20-D3】完成。ハルビンの都市建設もこのころより始まる。</p>
1901	<p>2. 大連港建造の労働者がストライキ。ロシア人工事監督者が中国人労働者を殴打したため、この監督者の解雇を要求。 *この年、ロシア側が「東清鉄道機車製造所」を大連駅東側に建造開始（その後の満鉄沙河河口工場、今の「大連機車車輛工廠」の前身）【9-B1】。</p>
1902	<p>*ロシア、東北還付条約を清朝と結ぶも、ダルニーを特別市に（東清鉄道技師長サハロフが市長）。公有地の払い下げ始まる。 *大連港の第一期建設完了、正式開港。</p> <p>9. 二葉亭四迷、ハルビンから旅順を訪問。</p> <p>10. ロシア、東清鉄道の造船ドックの中央発電所を建造開始（今の「大連造船廠中心変電所」の前身）【1-D1】。</p> <p>12.15. のちに東北で早い時期の文学作家となる也麗（劉雲清）、遼寧省普蘭店杏樹屯に生まれる。（大連で最も早い文学グループ「響濤社」などの同人、のち「満洲国」内で『作風』刊行会の同人）。 *紀鳳台が大連に「ロシア戲院」を建設【5-C5】。</p>
1903	<p>1.10. 旅順—ハルビン間の東清鉄道の線路完成、7月に正式開通。</p> <p>8.12. ロシア、旅順に極東総督府【18-C3】を設立、アレクセーエフが総督。 *この年、大連市街の第1期建設工程完成（現二七広場から友好広場までのヨーロッパ様式市街、現北京街の中国様式）。</p>
1904	<p>2.8. 日本、日露戦争発動。日本連合艦隊、旅順口停泊のロシア艦隊を夜襲（宣戦布告は2月10日）。</p> <p>2.24. 旅順口閉塞作戦開始（第2回は3月27日）【23-D4】。</p> <p>2. 旅順口ドックの中国人労働者、ストライキ。 〔3.18. 野戦鉄道提理部、東京で編成。〕</p> <p>5.5. 第2軍、金州北東の登沙河【25-E2】・猴児石【25-F1】の海岸から上陸、普蘭店【26-B2】占領。森鷗外、第2軍軍医部長として従軍。5月10日、日本独立第10師団、莊河北の大孤山【26-C2】から上陸。5月26日、南山、金州占領。</p> <p>5.30. 日本軍、ダルニー市街占領。6月15日、瓦房店【26-B2】占領。</p> <p>8.10. 黄海海戦、ロシア艦隊は旅順港から出られず。8月14日、蔚山沖海戦。</p> <p>8.11. 京釜鉄道の材料で安東（現丹東）から軍用輕便鉄道工事開始、翌年2月鳳凰城まで開通、同</p>